



## 速報

記者発表資料

平成30年 7月11日

配布日

■発表先：津山記者会

平成30年7月豪雨における苫田ダムの効果について

～管理開始以降最大の流入量(毎秒 663 m<sup>3</sup>)を記録～

苫田ダム流域では、平成30年7月5日から7日にかけて、梅雨前線の影響による豪雨により、苫田ダム上流域の降り始めからの流域平均雨量は464mmを記録しました。

そのため、苫田ダムでは、最大流入量が毎秒663m<sup>3</sup>に達し、平成17年4月の管理開始以降最大の流入量を記録しました。

これを受けて、苫田ダムにおいては、下流の岡山河川事務所からの要請を受け、通常の防災操作※1に加え、特別防災操作※2も実施し、流入量が最大の毎秒約663m<sup>3</sup>のとき、毎秒約563m<sup>3</sup>の洪水をダムに貯留しました。

その結果、ダム下流の津山地点(津山市昭和町今井橋付近)において、水位を約1.1m低減する効果があったと推定されます。

※1「防災操作」とは、大雨などによりダムに流入する洪水の一部を貯水池に貯め込み、放流量を流入量より小さくしてダム下流の河川に流す操作です。

※2「特別防災操作」とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の水位等の状況に応じ、今後の予測降雨量、ダムの残りの貯水容量等を勘案しながらダムの貯水容量を可能な限り有効活用し、放流量を通常よりも減じる操作です。

ただし、今後、多くの降雨が予想される場合は実施出来ません。

※各数値は速報値であり、今後変わることがあります。

### ○洪水の規模

累加雨量	464mm	(流域平均)
最大流入量	毎秒663m <sup>3</sup>	(過去1位)
最大放流量	毎秒243m <sup>3</sup>	
津山地点の水位低減効果	約1.1m	

### <問い合わせ先>

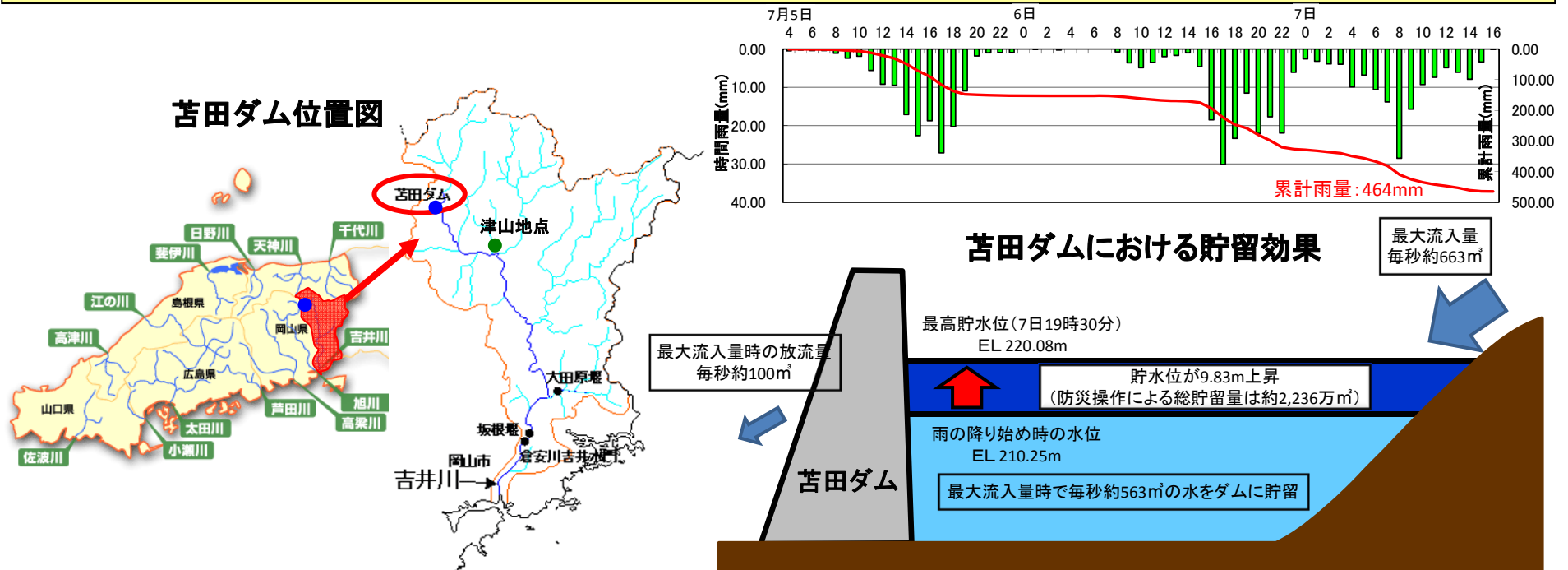
国土交通省 中国地方整備局 苫田ダム管理所

TEL (0868) 52-2151

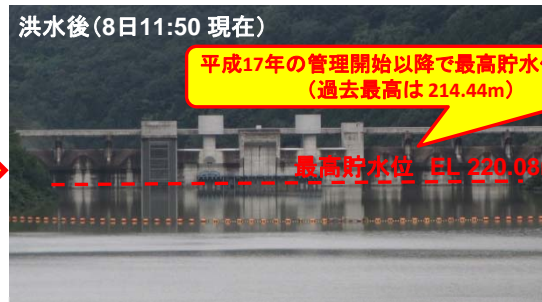
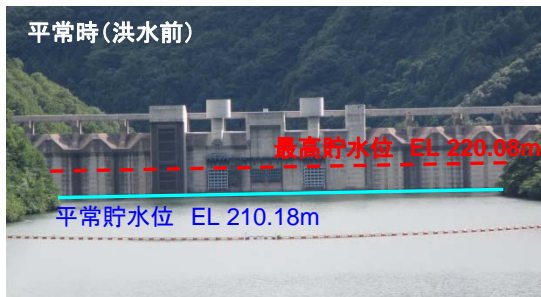
【総括】	所長	川本 洋次郎
【担当】	専門官	有満 命

# 苫田ダムの防災操作による治水効果 (平成30年7月豪雨) ~吉井川津山地点の水位を約1.1m低下~

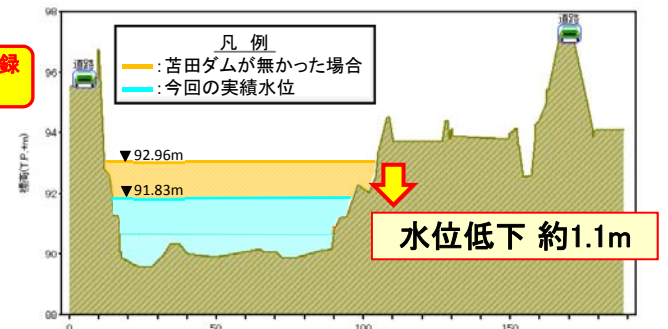
- 平成30年7月5日から7日にかけて、梅雨前線の影響により岡山県全域で豪雨となり、苫田ダム上流域において、平成30年7月5日~7日の累加雨量（流域平均）が**464mm**となり、ダムへの最大流入量は**毎秒約663m<sup>3</sup>**（平成17年の管理開始以降で歴代第1位）を記録。
- 今回の防災操作において、**約2,240万m<sup>3</sup>**の水を貯留し、下流の河川へ流す水量を最大で**毎秒約563m<sup>3</sup>**低減。
- ダム下流の津山地点（岡山県津山市昭和町）では**約1.1m**の水位を低減させる効果があったものと推定。



## 苫田ダム貯水池の状況



## 津山地点(津山市昭和町今井橋付近)における水位低減効果



※数値は速報値であり、今後変わることがあります。